



令和6年度 諏訪二葉高等学校評価表(年度末・自己評価)

49 長野県諏訪二葉高等学校 学校評価委員会

本校の学校教育目標	1 自主 2 努力 3 感謝
中長期目標	1 生徒一人ひとりの個性を伸ばし、主体性のある心豊かな生徒を育成する。 2 開かれた学校をめざし、保護者・地域から信頼される学校づくりを進める。
本年度の重点目標	1 キャリア教育を通じて自ら学ぶ姿勢を育て、生徒の進路希望の実現を図る。 2 「探究的な学び」を取り入れた授業改善により、生徒の課題解決力・コミュニケーション能力の育成、学力向上に努める。 3 いじめ、体罰のない安心・安全な学校づくりを図る。 4 学校生活の基盤となる規律ある生活態度を育成する。 5 生徒会活動や部活動の活性化を図り、生徒の自主性を育てる。 6 地域と連携し、開かれた学校づくりを推進する。

目標の項目別の評価とコメント 評価方法 A:成果が見られた B:向上が見られた C:改善が必要である

重点目標	評価項目	評価項目と評価の観点		観点別評価	項目評価	成果と課題	改善策
		評価の観点	項目評価				
1 生徒の進路実現を図る	より高い進路意識の育成を図り、分析会議等も充実させ学力向上の改善策を提案する。	①	・PTA及び同窓会と連携した進路講演会の開催や進路通信の発行により、生徒・保護者に必要な情報を提供し、進路実現に向けた高い意識を涵養し、協力関係を強めて進路実現につなげていく。 ・学級担任や学年と連携を図りながら、生徒ひとりひとりの進路相談に応じて適切な可能性を上げ、きめ細かい指導と情報提供を行って進路実現の手助けをする。	B	B	PTA総会時には外部講師を招いて、学年別にそれぞれの段階に応じた講演会を行った。また、学年ごとに実施された校の懇談会では、関心事に応じた説明を実施することができた。保護者懇談会では、家庭で読み返しができるように、進路資料を作成した。 ・担任の先生方は、年間予定表以外でも生徒面談を行った。進路相談に限らず、きめ細かい指導を行うことができた。 ・夏休みの前期に、長野県立大学、長野県立大学、公立諏訪東京理科大学、長野県看護大学の入試担当者による講演会を行った。また、冬休み前には信州大学の学部ごとの説明会を開催し、県内国公立大学の進路の関心を高めることができた。	・3年生の保護者向けの説明は、もっと早い時期に聞きたかったという声に代えていく必要があると考える。 ・大学・入試研究については、生徒と職員を対象とした研究会・説明会を開催できるように環境を整えたい。 ・大学説明会や模擬授業など外部と連携して実施する事業は、年度当初に予定を示せるようにしたい。
	②	・学習・キャリア教育係と連携しながら、模試分析システム等を活用してスタディーサポートや模試の分析を行い、学力・学習実態を把握する。また、充実した指導につなげるため、模試分析会議や進路検討会を開催し、情報を学年・教科共有する。 ・学力向上および新大学入試に向けて先進的な取り組みをしている学校の例を参考にしながら、本校における改善策を検討・実施する。	B	B	・スタディーサポート・スタディーサブリの結果について、それぞれ担当者を招いて分析会を行った。教員間で課題を共有することができた。 ・模試についても計画通りを実施することができた。生徒にとっては自分の学習を振り返る機会や志望校との距離をはかる機会となっていた。しかし、模試の分析や結果の共有については、全職員で情報を共有できるようにしたい。	・模試については次年度は「事前学習」及び「事後指導」をより有機的に取り入れられたらと考えている。学習係との連携も必要である。 ・模試の結果は、職員で共有した後どうすべきか方向性を示せるようにしたい。特に3年生については、その都度結果を分析しながら生徒の課題把握とその解決に繋げたい。	
	キャリア教育の充実を図る。	①	キャリア教育全体計画に従い、次の目標を達成させる指導を行う。 ・総合的な探究の時間を通じて自己を理解し、職業観や生き方など自分の将来像を描き、その実現のために学ぶという目的意識を持てるように、寄り添い指導していく。 ・情報収集判断能力、プレゼンテーション能力、自分自身の考えを伝える、相手の考えに耳を傾ける力を育てる。 ・幅広い分野についての探究を通して、地域社会の新たな課題を発見し、地域社会の一員として行動する態度を育成することができるようになる。 ・地元企業を知るや諏訪園工業メッセを通じ、現場の方の経験談を聞くことで、明確な将来像を描きながら学習できるように、計画・実施する。	B	B	・総合的な探究の時間の取り組みとして、1学年は地元企業訪問を実施した。地元企業について知る機会を増やし、次年度の探求につなげることを目的とした。また、学年発表会も企画し、情報収集判断能力、プレゼンテーション能力、自分自身の考えを伝える、相手の考えに耳を傾ける力を育てることができた。さらに、「地元企業を知る」では10社に協力いただいた。2学年は個人探究を行い、自分自身の興味関心について深める活動を行うことができた。年度末の最終発表会を準備して、プレゼンテーション能力、自分自身の考えを伝える、相手の考えに耳を傾ける力を育てることができた。 ・小・中学生への補習支援に諏訪小学校4名、諏訪中学校4名、諏訪中学校4名が参加し、教員についての理解や自らの学習内容の理解度について再認識することができ、大変いい取り組みとなった。 ・夏休みの前期に、長野県立大学、長野県立大学、公立諏訪東京理科大学、長野県看護大学の入試担当者による講演会を行った。また、冬休み前には信州大学の学部ごとの説明会を開催し、県内国公立大学の進路の関心を高めることができた。	・探究の時間をさらに充実させるため、教職員のみならず、他の生徒からの助言を受ける機会を更に増やしていきたい。また、各学年の担当係が「専任時間」を確保しているため、毎年繰り返し行うことができるような、指導者や手引書のようなものを作成したい。
	②	・探究の時間をさらに充実させるため、教職員のみならず、他の生徒からの助言を受ける機会を更に増やしていきたい。また、各学年の担当係が「専任時間」を確保しているため、毎年繰り返し行うことができるような、指導者や手引書のようなものを作成したい。	B	B	・本年度から実施した語学研修と探求学習を絡めていくことできめ細かい検討し、充実した時間となるようにしていきたい。		
2 生徒の学力向上に努める	生徒の学習意欲の向上に努める。	①	① 研究授業や授業アンケートの分析に基づき、より一層の授業の充実を図る。生徒の興味、関心を引き出すことができる授業を実践していく。	A	B	今年度は、3教科で研究授業を実施した他、キャリアアップ研修等の研究授業も多くあり、教員の壁を超えたいという思いが持てた。また、研究授業の中でプロトタイプを活用した実践例の紹介もあり、タブレットを有効活用した授業改善について考える時間となった。	・来年度も研修会等を計画し、職員全体へ共有していきたい。
	②	② 学習室、テスト前学習室等を設置し、定期考査に向けた学習を大切にさせるような環境・雰囲気作りにつとめる。	B	B	学習室の設置等により、生徒たちが快適に学習できる環境を作ることが出来た。しかし、利用者が参加者が少なくなりました。	・学習室の利用について、現状や生徒のニーズを鑑みて検討したい。	
	生徒の学習習慣と学力の定着を図る。	①	① 学習実態調査等を利用し、規律ある生活と家庭学習の習慣の確立を図る。	B	B	・テスト前に学習時間調査を実施し、生徒たちの実態を把握することが出来た。	・調査した結果を全職員に共有するとともに、検討する機会を計画したい。
	②	② 毎日の授業を大切にすることを、土曜講座や朝・放課後の学習等を充実させる。テスト前学習室を設け、復習、質問等きめ細かに対応し、さらなる学力の定着をはかる。自ら学ぶ意識を持たせ、家庭学習の充実につなげる。	B	B	・土曜セミナーは年度当初の計画の通り、実施することが出来た。朝・放課後補習も実施し、きめ細かい指導を行うことが出来た。	・土曜セミナーの内容や実施時期について見直し、さらに良い内容にしていきたい。	
3 安心・安全な学校づくりを作る	安心・安全な学習環境を作る。	①	① いじめ、不登校など生徒の動向を細かく観察して、問題を的確に把握し、適切に対処する。	B	B	担任、学年、係を中心にいじめに発展しそうな事例の早期にも組み取っていた。また、不登校傾向の生徒等に対して、その状況の改善を促していた。	より細かな生徒個々の状況を把握し、情報交換をするために、副担任も交えた拡大学年会の複数回開催などが考えられる。
	②	② 登下校時の街頭指導やHJR連絡を通して、自転車乗車時のヘルメットの着用や交通マナー、ルールを守る意識を高める。そして自分自身や周囲の人々の安全にも配慮するように指導する。警察とも連携して登下校時の安全確保に務める。	B	B	本年度の自転車事故の件数は2件で、昨年より3件減少した。また、事故当事者が、いずれも推奨されているヘルメットを着用していたことで、頭部への損傷は免れた。学校の啓発により事故が減少し、安全への意識向上からヘルメット着用が進んだと考える。	交通ルール、マナーを守ることを全教員に促し、また不十分な点も見られ、様々な方法で更なる啓発を行ってゆく。	
	③	③ 特別な支援を要する生徒の把握に努める。個々の生徒の状況に応じた柔軟で多面的な支援をする。	B	B	担任や養護教諭との連携を図り、状況把握に努めた。心に悩みを抱える生徒のケアや保護者のケアなど、病児等の専門機関と連携しながら対応することができた。職員研修会も早期に実施した。検査で状況を正確に把握することができ、結果が出るまでに時間がかかっていた検査を希望しない場合もあり、適切な対応が難しい場合もある。	カウンセラーの先生方も協力したり、アセスメントの実施により生徒の困りごとの把握に努めたい。	
	④	④ 各委員会での当番活動を充実させ、生徒が意識と責任をもって委員会活動に取り組みることができるように努める。特にエコマネジメントについて、各委員会でのようなことができるかを検討し、生徒・職員が協力し成果を上げるようにする。	B	B	委員長、副委員長は当番活動等にも責任をもって取り組んでいた委員会が多い。また、委員ひとりひとりが責任を持って活動を行うこととまだまだ課題が多いように思われる。エコマネジメントの観点では、生徒総会の議事録をPDF化し、資源の節約につなげることもできた。	当番活動においては、小まめに呼びかけを行い意識を高める。	
4 規律ある生活態度を育成する	規則を守り、生徒が安心して生活できる環境を整備する。	①	① 部活動部が円滑に運営されるよう、部長(代表者)会の開催などにより活動環境を整備するとともに、生徒が自ら意欲を持って取り組めるよう働きかける。	B	B	部会長を階級し、部室管理・練習環境に整備ができた。特に部室管理については、教員の意見に限らず生徒会役員、部長会の意見も取り入れたい。また、活動環境を整備する観点から生徒の意識が高まり始めているように思う。ただし、活動環境がいつも整っているとは言えない現状があるため、今後も積極的に働きかけていきたい。また、今年度の前期には、部長会の連絡網に同好会の連絡先が盛り込まれておらず、同好会による連絡がスムーズにいかない面もあったように思う。	練習環境整備においては、部活動顧問の先生方からの協力もいただが、生徒が責任をもって活動できるように支援していく。また、老朽化等に併せて必要に応じて、活動環境を整えていく努力もしていきたい。
	②	② 各委員会での当番活動を充実させ、生徒が意識と責任をもって委員会活動に取り組みすることができるように努める。特にエコマネジメントについて、各委員会でのようなことができるかを検討し、生徒・職員が協力し成果を上げるようにする。	B	B	委員長、副委員長は当番活動等にも責任をもって取り組んでいた委員会が多い。また、委員ひとりひとりが責任を持って活動を行うこととまだまだ課題が多いように思われる。エコマネジメントの観点では、生徒総会の議事録をPDF化し、資源の節約につなげることもできた。	当番活動においては、小まめに呼びかけを行い意識を高める。	
	生徒会活動の活性化を図る。	①	① 生徒の発想を活かしながら、テーマに沿った文化祭の企画や展示が行われるよう、各係間や生徒と教員との連携を図る。	B	B	「Imagination」という文化祭テーマのもと、想像力をまかして文化祭を創造するよう努めた。連日一度は役員会を開き、各委員会や係の企画をプレゼンし、生徒会職員から意見を求めることにより生徒の発想を活かした文化祭を創造することができた。例えば、全校制作の「らたばた」では各クラスの個性が出るように「ラスタ」を統一し、体育館の天井に吊るした際には多くの生徒と教員に見てもらったことができた。また、昨年の反省を活かしてキッチンカーに並ぶ際にも整理券を出すなど、様々な場面で生徒の発想を生かした工夫が見られた。意見交換が活発に行われたため、生徒間の連携は図れていたように思われる。ただし、教員からの反省や企画書が多すぎて内容が分からなくなってしまうというご意見もいただいたため、教員との連携がスムーズにいかない面もあったように思う。	企画書の件に関しては、次年度では企画書が本当に必要な企画であるかを精査したり、企画書をまとめた冊子などを作成したりすることによって、より教員との連携も密に図りたい。また、職員が自ら1回ほどは、生徒も企画を立案・承認することが困難であったり、一度の職員会に多くの企画が協議してとられてしまったりするため、2週に1度にするなど増やしてほしい。2月には、昨年度と同様に拡大役員会を行い、二葉祭について早い段階から企画・準備を行う予定である。
	②	② 各委員会での当番活動を充実させ、生徒が意識と責任をもって委員会活動に取り組みすることができるように努める。特にエコマネジメントについて、各委員会でのようなことができるかを検討し、生徒・職員が協力し成果を上げるようにする。	B	B	委員長、副委員長は当番活動等にも責任をもって取り組んでいた委員会が多い。また、委員ひとりひとりが責任を持って活動を行うこととまだまだ課題が多いように思われる。エコマネジメントの観点では、生徒総会の議事録をPDF化し、資源の節約につなげることもできた。	当番活動においては、小まめに呼びかけを行い意識を高める。	
6 開かれた学校をつくる	PTA活動の充実を図る。	①	① 春期秋期学年懇談会を充実させ、PTA活動の周知と多くの会員の参加により活動の活性化を図る。無理のない活動や交流の機会を検討する。	B	B	今年度の学年懇談会は、オンライン配信をし、参加できなかった保護者にも情報配信することができた。春期は学校の構内で配信したため、通学・通園とどうも配信できなかった。そこで秋期は業者さんにお申し、アーカイブも配信して保護者から高評価を得た。しかし費用が高額なのが課題である	これからはオンライン配信で保護者に情報配信できることが重要な手段になるため、学校でも機材をそろえて、職員が配信について研修し、春期秋期学年懇談会をオンライン配信・アーカイブ配信できるようにしていきたい。
	地域との連携を図る。	①	① 学校評議員や保護者・地域からの声など外部の意見を積極的に聞くとともに併輸入学・公開授業等、学校を開放する機会を設ける。様々な機関と連携し、生徒の探究活動を支援する。	B	B	体験入学・授業公開など当初の予定通り聞き、来校者の割合も増加している。学校開放のリスクヘッジが課題である	来校者の導線の管理や公開時間中の校内巡視の増員などを検討する。
	②	② 教育活動内容をWebサイトを通して速やかに発信し、生徒の日々の活動が迅速に伝わるようにする。学校案内パンフレットがわかりやすいものになるように工夫する。	A	B	Webサイトの内容が年々充実してきている。生徒会、クラブ活動で表彰される生徒の氏名を公開した方が学校生活の励みになるのではないかという課題の提案があった。	個人情報保護のため氏名公開はできないが、生徒が自負と励みを感じることができるよう情報発信を考えていく。	
	③	③ 教育活動内容をWebサイトを通して速やかに発信し、生徒の日々の活動が迅速に伝わるようにする。学校案内パンフレットがわかりやすいものになるように工夫する。	A	B	Webサイトの内容が年々充実してきている。生徒会、クラブ活動で表彰される生徒の氏名を公開した方が学校生活の励みになるのではないかという課題の提案があった。	個人情報保護のため氏名公開はできないが、生徒が自負と励みを感じることができるよう情報発信を考えていく。	



令和6年度 諏訪二葉高等学校評価表(年度末・学校評議員)

49 長野県諏訪二葉高等学校 学校評議員会

本校の学校教育目標	1 自主 2 努力 3 感謝
中長期目標	1 生徒一人ひとりの個性を伸ばし、主体性のある心豊かな生徒を育成する。 2 開かれた学校をめざし、保護者・地域から信頼される学校づくりを進める。
本年度の重点目標	1 キャリア教育を通じて自ら学ぶ姿勢を育て、生徒の進路希望の実現を図る。 2 「探究的な学び」を取り入れた授業改善により、生徒の課題解決力・コミュニケーション能力の育成、学力向上に努める。 3 いじめ、体罰のない安心・安全な学校づくりを図る。 4 学校生活の基盤となる規律ある生活態度を育成する。 5 生徒会活動や部活動の活性化を図り、生徒の自主性を育てる。 6 地域と連携し、開かれた学校づくりを推進する。

目標の項目別の評価とコメント 評価方法 A:成果が見られた B:向上が見られた C:改善が必要である

重点目標	評価項目	評価項目と評価の観点		観点別評価	項目評価	成果と課題	改善策
		評価の観点	項目評価				
1 生徒の進路実現を図る	より高い進路意識の育成を図り、分析会議等も充実させ学力向上の改善策を提案する。	①	・PTA及び同窓会と連携した進路講演会の開催や進路通信の発行により、生徒・保護者に必要な情報を提供し、進路実現に向けた高い意識を涵養し、協力関係を強めて進路実現につなげていく。 ・学級担任や学年と連携を図りながら、生徒ひとりひとりの進路相談に応じて適切な可能性を上げ、きめ細かい指導と情報提供を行って進路実現の手助けをする。	A	A	PTA総会時には外部講師を招いて、学年別にそれぞれの段階に応じた講演会を行った。また、学年ごとに実施された校の懇談会では、関心事に応じた説明を実施することができた。保護者懇談会では、家庭で読み返しができるように、進路資料を作成した。 ・担任の先生方は、年間予定表以外でも生徒面談を行った。進路相談に限らず、きめ細かい指導を行うことができた。 ・夏休みの前期に、長野県立大学、長野県立大学、公立諏訪東京理科大学、長野県看護大学の入試担当者に講演会を行った。また、冬休みには信州大学の学部ごとの説明会を開催し、県内国公立大学の進路の関心を高めることができた。	・3年生の保護者向けの説明は、もっと早い時期に開かれたという声に代えていく必要があると考える。 ・大学・入試研究については、生徒と職員を対象とした研究会・説明会を開催できるように環境を整えたい。 ・大学説明会や模擬授業など外部と連携して実施する事業は、年度当初に予定を示すようにしたい。
		②	・学習・キャリア教育係と連携しながら、模試分析システム等を活用してスタディーサポートや模試の分析を行い、学力・学習実態を把握する。また、充実した指導につなげるため、模試分析会議や進路検討会を開催し、情報を学年・教員と共有する。 ・学力向上および新大学入試に向けて先進的な取り組みをしている学校の例を参考にしながら、本校における改善策を検討・実施する。	B	A	・スタディーサポート・スタディーサブリの結果について、それぞれ担当者を招いて分析会を行った。教員間で課題を共有することができた。 ・模試についても計画通りを実施することができた。生徒にとっては自分の学習を振り返る機会や志望校との距離をはかる機会となっていた。しかし、模試の分析や結果の共有については、全職員で情報を共有できるようにしたい。	・模試については次年度は「事前学習」及び「事後指導」をより有機的に取り入れられたらと考えている。学習係との連携も必要である。 ・模試の結果は、職員で共有した後どうすべきか方向性を示すようにしたい。特に3年生については、その都度結果を分析しながら生徒の課題把握とその解決に繋げたい。
	キャリア教育の充実を図る。	①	キャリア教育全体計画に従い、次の目標を達成させる指導を行う。 ・総合的な探究の時間を通して自己を理解し、職業観や生き方など自分の将来像を描き、その実現のために学ぶという目的意識を持てるように、寄り添い指導していく。 ・情報収集判断能力、プレゼンテーション能力、自分自身の考えを伝える、相手の考えに耳を傾ける力を育てる。 ・幅広い分野についての探究を通して、地域社会の新たな課題を発見し、地域社会の一員として行動する態度を育成することができるようにする。 ・地元企業を知るや諏訪園工業メッセを通じ、現場の生の経験談を聞くことで、明確な将来像を描きながら学習できるように、計画・実施する。	B	B	・総合的な探究の時間の取り組みとして、1学年は地元企業訪問を実施した。地元企業について知る機会を増やし、次年度の探求につなげることを目的とした。また、学年委員会も企画し、情報収集判断能力、プレゼンテーション能力、自分自身の考えを伝える、相手の考えに耳を傾ける力を育てることができた。さらに、「地元企業を知る」では10社に協力いただいた。2学年は個人探究を行い、自分自身の興味関心について深める活動を行うことができた。年度末の最終発表会を通じて、プレゼンテーション能力、自分自身の考えを伝える、相手の考えに耳を傾ける力を育てることができた。 ・小中学生への補習支援に諏訪小学校4名、諏訪中学校4名、諏訪中学校4名が参加し、教員についての理解や自らの学習内容の理解度について再認識することができ、大変いい取り組みとなった。 ・夏休みの前期に、長野県立大学、東京グローバルゲートウェイに2泊3日の研修を実施した。60名程度の生徒が参加し、有意義な時間となった。	・探究の時間をさらに充実させるため、教職員のみならず、他の生徒からの助言を受ける機会を更に増やしていきたい。また、各学年の担当係が「専任時間」を確保しているため、毎年繰り返し行うことができるような、指導者や手引書のようなものを作成したい。
		②	研究授業や授業アンケートの分析に基づき、より一層の授業の充実を図る。生徒の興味、関心を引き出すことができる授業を実践していく。	B	B	今年度は、3教科で研究授業を実施した他、キャリアアップ研修等の研究授業も多くあり、教員の壁を超えたいという時間となった。また、研究授業の中でプロトタイプを活用した実践例の紹介もあり、タブレットを有効活用した授業改善について考える時間となった。	・来年度も研修会等を計画し、職員全体へ共有していきたい。
2 生徒の学力向上に努める	生徒の学習意欲の向上に努める。	①	学習室、テスト前学習室等を設置し、定期考査に向けた学習を大切にさせるような環境・雰囲気作りにつとめる。	B	B	学習室の設置等により、生徒たちが快適に学習できる環境を作ることが出来た。しかし、利用者が参加者が少なくなりました。	・学習室の利用について、現状や生徒のニーズを鑑みて検討したい。
		②	学習実態調査等を利用し、規律ある生活と家庭学習の習慣の確立を図る。	B	B	・テスト前に学習時間調査を実施し、生徒たちの実態を把握することが出来た。	・調査した結果を全職員に共有するとともに、検討する機会を計画したい。
3 安心・安全な学校づくりを作る。	安心・安全な学習環境を作る。	①	いじめ、不登校など生徒の動向を細かく観察して、問題を的確に把握し、適切に対処する。	B	B	担任、学年、係を中心にいじめに発展しそうな事例の早期にも組み取っていた。また、不登校傾向の生徒等に対して、その状況の改善を促していた。	より細かな生徒個々の状況を把握し、情報交換をするために、副担任も交えた拡大学年会の複数回開催などが考えられる。
		②	毎日授業を大切にすることを、土曜講座や朝・放課後の学習等を充実させる。テスト前学習室を設け、復習、質問等きめ細かく対応し、さらなる学力の定着をはかる。自ら学ぶ意識を持たせ、家庭学習の充実につなげる。	B	B	・土曜セミナーは年度当初の計画の通り、実施することが出来た。朝・放課後補習も実施し、きめ細かい指導を行うことが出来た。	・土曜セミナーの内容や実施時期について見直し、さらに良い内容にしていきたい。
4 規律ある生活態度を育成する	規則を守り、生徒が安心して生活できる環境を整備する。	①	登下校時の街頭指導やHJR連絡を通して、自転車乗車時のヘルメットの着用や交通マナー、ルールを守る意識を高める。そして自分自身や周囲の人々の安全にも配慮するように指導する。警察とも連携して登下校時の安全確保に務める。	B	B	本年度的自転車事故の件数は2件で、昨年より3件減少した。また、事故当事者が、いずれも推奨されているヘルメットを着用していたことで、頭部への損傷は免れた。学校の発着により事故が減少し、安全への意識向上からヘルメット着用が進んだと考える。	交通ルール、マナーを守ることを全教員に促し、また不十分な点も見られ、様々な方法で更なる啓発を行ってゆく。
		②	特別な支援を要する生徒の把握に努める。個々の生徒の状況に応じた柔軟で多面的な支援をする。	B	B	担任や看護教諭との連携を図り、状況把握に努めた。心に悩みを抱える生徒のケアや保護者のケアなど、病院長等の専門機関と連携しながら対応することができた。職員研修会も早期に実施した。検査で状況を正確に把握することが多いが、結果が出るまでに時間がかかったり検査を希望しない場合もあり、適切な対応が難しい場合もある。	カウンセラーの先生方も協力したり、アセスメントの実施により生徒の困りごとの把握に努めたい。
5 生徒の自主性を育てる	生徒会活動の活性化を図る。	①	生徒の発想を活かしながら、テーマに沿った文化祭の企画や展示が行われるよう、各係間や生徒と教員との連携を図る。	B	B	「Imagination」という文化祭テーマのもと、想像力をまかして文化祭を創造するよう努めた。連日一度は役員会を開き、各委員会や係の企画をプレゼンし、生徒会職員から意見を求めることにより生徒の発想を活かした文化祭を創造することができた。例えば、全校制作の「たばた」では各クラスの個性が出るように旗に「クラスを表す一言」を入れ、体育館の天井に吊るした際にも多くの生徒や教員に見てもらったことができた。また、昨年の反省を活かしてキッチンカーに並ぶ際にも整理券を出すなど、様々な場面で生徒の発想を生かした工夫が見られた。意見交換が活発に行われたため、生徒間の連携は図れていたように思われる。ただし、教員からの反省や企画書が多すぎて内容が分らなくなってしまうというご意見もいただいたため、教員との連携がスムーズにいかない面もあったように思う。	企画書の件に関しては、次年度では企画書が本当に必要な企画であるかを精査したり、企画書をまとめた冊子などを作成したりすることによって、より教員との連携も密に図りたい。また、職員会が月に1回ほどだと、生徒も企画を提案しやすくなるが、図面や資料の準備など、一度の職員会に多くの企画が協議してとられてしまったりするため、2週に1度にするなど増やしてほしい。2月には、昨年度と同様に拡大役員会を行い、二業科について早い段階から企画・準備を行う予定である。
		②	各委員会での当番活動を充実させ、生徒が意識と責任をもって委員会活動に取り組むことができるよう努める。特にエコマネジメントについて、各委員会でのようなことができるかを検討し、生徒・職員が協力し成果を上げるようにする。	B	B	委員長、副委員長は当番活動等にも責任をもって取り組んでいた委員会が多い。ただ、委員ひとりひとりが責任を持って活動を行うこととまだ課題が多いように思われる。エコマネジメントの観点では、生徒総会の議案書をPDF化し、資源の節約につなげることもできた。	当番活動においては、小まめに呼びかけを行い意識を高める。
6 開かれた学校をつくる	地域との連携を図る。	①	部活動部が円滑に運営されるよう、部長(代表者)会の開催などにより活動環境を整備するとともに、生徒が自ら意欲を持って取り組めるよう働きかける。	B	B	部長会を開催し、部室管理・練習環境に整備ができた。特に部室管理については、教員の意見に限らず生徒会役員、部長会の意見も取り入れた。また、活動環境を整備する観点から生徒の意識が高まり始めているように思う。ただし、活動環境がいつも整っていないと言えない現状があるため、今後も積極的に働きかけていきたい。また、今年度の前期には、部長会の連絡網に同好会の連絡先が登録されておらず、同好会による連絡が行き届いていないという状況があった。連絡が確実と伝わるように次年度は心がけたい。	練習環境整備においては、部活動顧問の先生方からの協力もいただきたが、生徒が責任をもって活動できるように支援していく。また、老朽化等に備う修繕等がないように、活動環境を整えていく努力もしていきたい。
		②	PTA活動の充実を図る。	A	A	今年度の学年懇談会は、オンライン配信をし、参加できなかった保護者にも情報配信することができた。春期は学校の機材で配信したため、通達・音声とどうも配信できなかった。そこで秋期は業者をお願いし、アーカイブも配信して保護者から高評価を得た。しかし費用が高額なのが課題である。	これからはオンライン配信で保護者に情報配信できることが重要な手段になるため、学校でも機材をそろえて、職員が配信について研修し、春期秋期学年懇談会をオンライン配信・アーカイブ配信できるようにしていきたい。
		③	教育活動内容をWebサイトを通して速やかに発信し、生徒の日々の活動が迅速に伝わるようにする。学校案内・パンフレットがわかりやすいものになるように工夫する。	B	A	体験入学・授業公開など当初の予定通り聞き、来校者の割合も増加している。学校開放のリスパヘンが課題である。	来校者の導線の管理や公開時間中の校内巡視の増員などを検討する。
④	広報活動の充実を図る。	①	教育活動内容をWebサイトを通して速やかに発信し、生徒の日々の活動が迅速に伝わるようにする。学校案内・パンフレットがわかりやすいものになるように工夫する。	B	A	Webサイトの内容など年々充実してきている。生徒会、クラブ活動で表彰される生徒の氏名を公開した方が学校生活の励みになるのではないかという課題の提案があった。	個人情報保護のため氏名公開はできないが、生徒が自負と励みを感じることができよう情報発信を考えていく。